

別紙 2

FoE 英国によるジョニーへのインタビュー (2007年10月)

イギリスでは女王陛下も、レイザーライトのライブを見たことがあります。彼らの最新アルバムは100万枚以上を売り上げました。

しかし、レイザーライトのフロントマン、ジョニー・ボーレルは、アツくなっているのはステージの上だけではないことを知っています。2006年、かれは地球温暖化問題の取り組みを手伝うため、「The Big Ask」へのサポートを宣言しました。

彼はツアーでキャンペーンの告知を行い、ファンに署名するようにすすめました。Friends of the Earthとともに「低炭素デー」を過ごした彼にインタビューをしました。

「心配なことがあったら、行動を起こせばいい。
信念にもとづいて立ち上がることを恐れちゃいけないんだ。」

ジョニー・ボーレル

温暖化問題について考え始めたきっかけは？

去年、映画「不都合な真実」を仲間と見た。お互いの顔を見て、何かしないといけないね、と話したんだ。

次の日 Friends of the Earth に電話して、「ハイ、ジョニーだけど、手伝いたいんだけど」って言ったんだ。

なぜ Friends of the Earth をサポートしているの？

僕は温暖化問題についてすごく心配していて、僕ができることのうち一番重要なことをしたかったんだ。僕にとって、それは政治に関わることだった。だから Friends of the Earth と「The Big Ask」に興味を持ったんだ。

「低炭素デー」はどうだった？

いつもやるいろんなことを炭素排出の少ない方法でやってみた。やってみる価値はあったよ。(ガソリンじゃなくて)電動スクーターで走ったり、太陽光で発電しているスタジオでレコーディングしたり、ロンドンの周辺地域内(M25)ですべての食材をまかなっているレストランでランチしたり。

やってみて、温暖化問題の解決策があることがわかった。このスタジオみたいな太陽光発電も今に主流になるだろうね。

みんなは何ができると思う？

省エネルギーの電球に換えたり、どんなにたくさんの水を使っているかを考えたりすることもできるけど、声を上げることができる。僕はこれがものすごく大切なことだと思っているよ。

声をあげるのって、簡単だよ。ウェブサイトから地元の国会議員にEメールを送り、友達にも教えればいい。僕自身もやってみたけど、メールを送ってから2、3日後に僕の地元の議員から手紙が返ってきたよ。

最後に一言メッセージを。

強力な気候法ができたなら、あらゆる種類の産業に効果があると思う。正しい方向に向けての大きな一歩になると思うよ。

(翻訳: FoE Japan 2009年1月15日)